



卒業式 (3月9日)

学校法人高知学園  
高知リハビリテーション学院

# 学 院 報

学院報第19号

学校法人 高知学園  
高知リハビリテーション学院

平成26年 3月20日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102  
高知県土佐市高岡町乙1139-3  
Tel 088-850-2311  
Fax 088-850-2323  
http://www.kochi-reha.ac.jp/  
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション  
学院への抱負⑧

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様にも少しでも学院のことを知っていただくよう始めました学院報も第九号の発刊を迎えることができました。

平成二十五年四月に理学療法学科四十六期生(七三名)、作業療法学科二十一期生(四〇名)、言語療法学科十七期生(三五名)の新生を迎え学生総数五百七十二名でスタートいたしました平成二十五年度も、四月のスポーツ大会、八月のよさこい祭り、十月の学院祭も無事終わり、これらの行事を通して学院生としての絆を深めることができましたように思います。また四年次生は四年間の集大成でもあります卒業研究発表会も無事終わり、言語療法学科は二月十五日、理学療法学科、作業療法学科は二月二十三日に行われる国家試験に向け最後の追い込みに入っているところとです。

平成十年に現在の土佐市に移転して今年で十六年目を迎え、移転当初より土佐市に根付いた学院づくり、すなわち土佐市の市民からも愛される学院づくりを目指して努力をしております。平成二十五年度の活動について少し紹介しますと、

①船越地区の老人クラブでのボランティア活動、ここでは健康づくりや引きこもりを無くす目的で本学院の教員と学生が定期的に参加して百歳体操やゲーム等を行っております。

②山の手地区(高岡第二小学校校区)で行われる山の手ふれあいフェスタでは毎年行っている体力測定に加え、今年は骨密度の測定も行いました。また、③文部科学省の委託事業「地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業」のモデル校(高岡第二小学校)ということで、本学院の学生が外遊びチューターとして放課後の遊び方についての指導のお手伝いをしております。その他にも毎年行われております土佐市主催の「ふれあいフェスタinn土佐city」での体力測定、高岡第一小学校児童の体力測定など土佐市や小学校、地域のイベントには積極的に参加するようしております。まだまだ教職員主体の活動ですが、今後はできるだけ学生主体の地域活動が多くなるように、努力を重ねていきたいと考えております。どうか今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 学生生活を振り返って



言語療法学科

藤田 隆良

四年間の学院生活を温かく見守り、またご指導して下さった言語療法学科の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

十四期生は、クラスも上手くまとまらず先生方にもご迷惑をおかけすることが多いクラスでした。高校生からの気持ちのままで、先生方からおしかりを受けることが多く、無事に卒業できるのか不安に思うこともありまし



作業療法学科

北村 光章

今、学院生活を振り返ってみると、レク大会や学院祭、定期試験に臨床実習、国家試験と大変な日々でしたが、あつという間の四年間だったなと思います。私は、何事も精一杯後悔しないようにやり遂げたいという気持ちで日々を送ってきました。勉強以外にも、吹奏楽部に所属し、学院祭や卒業式での演奏、病院や施設への慰問演奏、そして昨年は、ねりんピックよさこい高知2013で演奏を



理学療法学科

多賀 由枝

理学療法を学ぶために入学したこの学院での生活は、辛いこともありましたが、それ以上に多くの楽しい思い出が残るとも内容の濃い四年間でした。日々のレポート課題や実習で私を支えてくれたのは、周りの友達の内です。苦手な分野は誰かに教わり、自分もまた誰かに教えることで、お互いを高め合いさらなる向上を図ることが出来ました。学院祭やレクリエーション大会には力を合わせて

た。しかし、学院祭でのクラス自慢、テスト勉強や臨床実習対策など、こごとというときには団結力を発揮するクラスでした。時にはけんかもあるけど、四年間互いに支えあった仲間たちは学院生活で得た宝物です。

我々十四期生が無事に卒業できたのも先生方のおかげです。本当にありがとうございました。これからはそれぞれの道を歩んでいきますが、高知リハビリテーション学院の卒業生として誇りをもって頑張っていきたいと思

かせて頂く機会があり、音楽を通して人との繋がりに感じ、私は人と接することがより好きになりました。また、実習を通して病院で働くという意識が芽生えたことや、学院での座学を実際に対象者の方と関わらせて頂き、実践に繋げる事が出来、とても有意義な実習を送ることが出来ました。この四年間で、同じ夢に向かって頑張ってきた仲間、御指導して下さいました先生方、いつも応援してくれた親に感謝して、これからの道を歩んでいきたいと思えます。四年間、本当に有難う御座いました。

全力で取り組み、その後に開かれる飲み会では疲れをもともせず、夜遅くまで盛り上がりました。思い返すと本当に楽しい思い出ばかりが頭に浮かび、この学院で学び卒業の日を迎えられることを嬉しく思うと同時に、とても誇りに思っています。私たちが勉学面でも精神面でも成長させてくださった先生方、見守ってくれた両親には心から感謝しています。成長した姿でまた皆と会えることを楽しみに、春からは一人の理学療法士として精一杯頑張っていきたいです。

## 「就職ガイダンスの報告及び

## 就職状況」

昨年の十月十九日(土)、本学院にて四年次生を対象に「就職合同説明会」が開催されました。当日は五十二施設一十二名と多くの採用担当者にご参加いただき、熱気あふれる就職説明会となりました。当日は、講堂と食堂に分かれブース形式にて行い、学生達は事業内容や取組みについて説明を受け、具体的な雇用条件や職場環境などについて真剣に聴き入っていました。また、県内外の採用担当者の方からも楽しく、わかりやすく説明していただき、会場では真剣な中にも和やかな雰囲気がい漂い、これから就職先を考える学生にとり、今後の活動の第一歩となる良い機会となりました。平成二十五年度の本学院への求人数(求人数)は、現在理学療法学七七六件(二八一八名)・作業療法学科八〇〇件(二八〇二名)・言語療法学科五九三件(一五〇〇名)と全国各地の病院や施設からたくさんの方の求人を頂いております。今年度の卒業生は、高知大学医学部附属病院・高知赤十字病院・社会医療法人 近森会他県内外の病院に多数内定しています。

# 卒業研究発表会

## 言語療法学科

補導主任

吉村知佐子

平成二十五年度の卒業研究発表会が、平成二十五年十一月二十七日から二十九日の三日間で行われました。言語療法学科としては第十四回の発表会でした。発表者は二十五名で、摂食・嚥下分野や発声発語分野、小児分野など幅広い内容で研究を取り組み、この日を迎えることができました。言語療法学科では、一、二年次生よりセミナー活動を通して、テーマの検討、研

究の仕方等学んできました。はじめは、グループ研究を行い、クラスメイトと意見を出し合いながら協調性をもつことの大切さを経験したと思います。そして、三年生からはゼミごとに分かれ、個人での研究となります。そこでは、自分の研究と先行研究の違いや共通点をみつけ、考察を深めていきました。十四期生には、卒業しても周りの方との協調性を養い、研究する意欲をもち、日頃の臨床に飛躍してほしいと願っております。

最後になりましたが、卒業研究にあたり多くの在校生等に実験の在校生等に実験やアンケートなどに協力していただきました。また、諸先生方、多くの方々にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。



## 作業療法学科

補導主任

大塚 貴英

この度、学生生活四年間の集大成として、平成二十五年十一月二十七日～二十九日に卒業研究論文発表会を実施することができました。発表会では、どの学生も趣向を凝らしたポスターを使用し、また、後輩達も加わった中で活発な意見を交わし、学会さながらの発表会となりました。また、平成二十六年三月に卒業研究論文集として発行することができました。こち

らも、決まった書式の中で簡潔にまとめ上げ、すばらしい論文集になっていきます。例年、卒業研究論文を作成するには、様々な努力と苦労を必要とします。当学院では、三年次より研究の計画立案やデータの収集・分



析、論文の執筆と段階的に約二年間もの月日をかけ卒業研究論文を作成しています。その努力と苦労が多い分だけ、卒業研究が完成した時の達成感や感謝の気持ちも大きかったと思います。これからは、今回の達成感や感謝の気持ちを忘れることなく、一人の療法士として、努力と苦労をおしまず、対象者との関わりや研究を続け、自分の思い描く療法士像を追い求めて欲しいと思います。最後になりましたが、これまで学生のためにご尽力下さいました皆様に、深く感謝申し上げます。

## 理学療法学科

補導主任

平賀 康嗣

平成二十五年度の卒業研究及び研究発表では、理学療法学科七七名の四年生が研究を行い、発表が行われました。半数以上が四年次の実習を終える前に抄録まで完成させている状況は、私が初めて卒業研究発表に携わった八年前と比べて計画的に卒業論文に取り掛かっていること

を実感します。内容も理学療法の研究に多く使われる関節可動域の変化、ストレッチングによる筋伸張効果、筋力増強効果、重心動揺計を用いたバランス能力評価以外にもプロンプト・フェイディング法を用いた記憶練習、常圧低酸素環境での呼吸循環機能に与える影響、学習環境が計算課題の作業成績に与える影響等、幅広い範囲での研究がされており、就職した後にも取り組むことが出来る内容であったと思いま

す。今後も高知リハビリテーション学院を大いに利用して研究に取り組んでください。



# ))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科  
光内 梨佐

私は高知リハビリテーション学院言語療法学科の三期生です。今年で本学院を卒業してから十年、本学院に入職して七年目を迎えました。現在、三年生の担任をしています。三年生は今年の二月に初めての実習となる臨床見学実習を



作業療法学科  
大塚 貴英

私は、高校卒業後、理学療法助手の職に就きましたが、そのことがきっかけで、作業療法の治療手段のおもしろさに惹かれ、作業療法士を目指しました。養成校卒業後も、高知市にある近森リハビリテーション病院に十一年間在籍しましたが、途中二年間は、



理学療法学科  
平賀 康嗣

今年度で教員となって八年目(二十一期卒)となり、現在は理学療法学科四年次生(四十三期生)の主任を担当しております。この原稿を書いている二月は、四年次生の国家試験を目前に控えてお

終えました。実習に行く前は不安に押しつぶされそうになる学生もいました。しかし、実習から戻ってきた学生は驚くほど変わっていました。「こんなST(言語聴覚士)になりたい」「小児分野で働きたい」など意欲がある言葉をたくさん耳にしました。そのような中で学生は今、来年度にいく臨床実習や国家試験に向けて仲間と一緒に毎日、勉強しています。その勉強方法も

出向という形で、当学院での教育に携わりました。出向期間終了後、二年間は病院勤務に戻っていましたが、前職を辞し、当学院に入職したという、他の先生方とは一風変わった経歴を持っています。担当科目は、二次次の応用作業学・義肢装具学・日常生活学、三年次の生活環境論を担当しています。そのなかで、リハビリテーション(特に作業療法)は機能訓練だけではなく、対象となる方々が、住

り、一日一日が飛ぶように過ぎていきます。この時期になればもうそろそろ国家試験の目処が立ち、落ち着いた状況になることに淡い期待を抱いていたのですが、困ったことに四年次生よりも私のほうが事がしばしばあります。しかし、なかなか勉強に集中できなかった四年次生が一生懸命に勉強している姿を見ると、

実習前とは変わり、分からないことがあれば、友達にたずね、一緒に調べ、更に分からなければ教員と一緒に勉強しています。必ず自分のものにするという意気込みが感じられます。その姿を見て私自身も「もっと頑張らなければいけない」と思っています。これから勢いよく日々成長していく学生と共に頑張りたいと思います。

み慣れた場所で、元の生活に出来るだけ戻れるように、様々な角度から援助する仕事であることを伝えたいと、日々考えながら授業を行っています。また、国家試験に関する手続きや勉強会の計画と、入学試験の実施計画実務に関する担当もしています。これからも、対象者に信頼されるセラピストを育てていきたいと考えております。

ここまでできたら覚悟を決めて不安なそぶりは一切見せないようにしようと思つています。学院報が完成するころには国家試験の結果も分かっていることでしょう。良い結果となることを祈っています。

## 図書館司書 紹介



依光 朋子

高知リハビリテーション学院図書館で司書をしています。医学書に囲まれての司書生活をスタートさせた頃は、毎日が「MMT?」(徒手筋力検査法)「SLTA?」(標準失語症検査)と疑問符の嵐でした。レファレンス(利用者が求める情報を提供する)は、司書の最も重要な役目です。皆さんの質問に早く対応しなければと焦ったものでした。本を紹介できるようなった今でも、専門的な質問や、独創性ある略語に向き合っています。「茶本」→「言語聴覚療法臨床マニュアル」表紙が茶色なので、この呼び名がついたと思われる。リハコツ→リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ」最初に聞いた時、余りに略しているの、同じ本のことなのか疑問に思いました。これらの質問の答えが分かった時は、思わず笑ってしまいました。利用者の探している情報を理解して提供するには、コミュニケーションも大切だなと実感しています。また、医学文献を検索するなど医療系図書館ならではの司書業務もあります。全国の大学図書館、病院図書室、そして各地の卒業生から文献を送ってほしいと依頼が来る毎日です。図書館では、利用者の皆さんに快く利用してもらえよう様々な取り組み(ポイントカードや国家試験一問一答など)も行っています。さて、四月からは図書館が別館二階に移転します。面積はこれまでの約二倍。閲覧・インターネット検索スペース増設。新たにグループ学習室、移動書庫を設置。グループ学習室では、複数で学習できるスタイルが可能となり、インターネット検索は館内どこからでもできるようになります。利用者の皆さんの学習環境を整備するだけでなく、図書館として学習を支援できる新たなサービスも提供できるよう取り組んでいきたいと考えています。モットーは「また利用したくなる図書館」。これからの図書館サービスにもご期待ください。

# 知つとらせ

## 《お知らせの巻》

### 学生生活

高知リハビリテーション学院は、いわゆる専門学校です。高等学校を卒業してから四年間、専門知識を学ぶ教育機関になります。

いまは大学も専門的技術を身につける職業課程が重視されるようになりましたが、かつては、大学は研究機関であって、職業訓練は専門学校にたよっていました。しかし現在では、研究は大学院に移る一方で、専門学校も特にリハビリテーション学科では二年課程や三年課程ではなく四年課程の学校が多くなり、大学と専門学校の教育内容の違いがなくなっています。このため、四年制の専門学校での教育システムは大学とほぼ同じと思って戴ければよいでしょう。とはいえ、カリキュラム(教育課程)やシラバス(授業科目要綱)などという教育分野の専門用語もあって、なかなか理解して戴き難いと思います。

このことから、教務部では年一回、平成二十六年からは保護者の皆様に本学院での教育課程や学生の皆様の学習状況を説明させて頂く機会を設けることに致しました。いまのところ平成二十六年度は九月の予定ですが、あらためてご案内させて頂きますので、ご参加下されば幸いです。

(教務部 山本)

## 平成25年度 クラブ一覧表

	クラブ名
1	野 球 部
2	フットサル部
3	バレーボール部
4	バスケットボール部
5	ソフトボール部
6	卓 球 部
7	バドミントン部
8	剣 道 部
9	ダ ン ス 部
10	吹 奏 楽 部
11	軽 音 楽 部
12	テ ニ ス 部

## ク ラ ブ 紹 介

### 【野 球 部】



理学療法学科 東浦 亘

高知リハビリテーション学院軟式野球部は、部員は約十八名で、毎週火曜日十八時から二時間程度、土曜日朝九時から十二時までの三時間程度、土佐市運動公園で練習しています。引退した先輩方も練習に来てくださり、経験者、未経験者に関わらず楽しく練習をしています。一部、二部の大会に参加したり、他のチームと練習試合をしたり、対外試合も豊富です。今の目標は、全国大会に出場することです。現在は三年生がチームを抜けて一・二年生のチームですが、一年生がとても少ないので二年生が忙しくなると練習が出来なくなります。是非、野球に興味がある方や経験者の方は、一度だけでも良いので練習に来てもらえると嬉しいですね。これからも応援を宜しくお願いします。

## 保健室だより

上村 孝子

まだまだ風は冷たいですが、少しずつ寒さも和らいできましたが、まだ寒い日も続きますから、体調管理をしっかり行って元気に過ごしたいものです。保健室では、全校生徒の皆さんの心と体が健康で安全な学校生活をおくれるように、さまざまな面でサポートしていきたいと思っています。健康診断は、学校保健法で義務付けられているもので、疾病の早期発見・早期治療および健康管理を目的として行うものですから、学生のみなさんは必ず受診しなければなりません。卒業年次生は3月に、新入生・2・3年次生は4月にあります。「健康管理」は「自己管理」です。風邪など身近な病気対策や、毎日の食生活や運動不足から引き起こされる生活習慣病の予防です。診断結果から自分の改善点を知ることで、個人の生活習慣をより健康的なものにすることが自己管理です。特に、内臓脂肪がたまっておこる肥満は、生活習慣を見直せば解消できます。また、喫煙は動脈硬化の代表的な危険因子なので、煙草の本数を減らすなどの努力が必要です。何らかの所見のある人は、結果通知でお知らせしますので、保健室に必ず来てください。実施日に定期健康診断を受けることができなかつた場合は、各自で医療機関にて受診(自己負担)し、その診断結果を保健室に必ず提出してください。

全国で活躍する卒業生シリーズ⑱

社会医療法人 近森病院 リハビリテーション部  
 言語療法学科六期生 藤本 祐子



言語療法学科六期生として卒業し、言語聴覚士として社会に出て八年目になります。現在、高知市の中心部にある社会医療法人近森会近森病院に勤務しています。入職当初は、同法人内の近森リハビリテーション病院に配属となり、失語症や構音障害、摂食・嚥下障害を呈した患者さんを中心にアプローチを実施していました。その後、急性期病院である現部署に配属となり、肺炎や骨折、その他様々な術後の廃用症候群、ALSやパーキンソン病などの進行性疾患を有す患者さんも対象となり、言語聴覚士としての仕事の難しさを日々感じつつも、働きがいを感じるようになってきました。六年目を迎えた頃、高知リハビリテーション学院言語療法学科長の石川裕治先生からの誘いで、言語聴覚士の職能団体である一般社団法人日本言語聴覚士協会の活動に参加することになりました。役割としては、石川先生が委員長を務めている地方組織委員会の委員として、全国の都道府県士会の代表者が集まる都道府県士会協議会(年二回)を中心に活動を行っています。

都道府県士会協議会は、協会の

役員と全国の都道府県士会の会長あるいは副会長が集まって情報交換を行う、とても緊張する会なのですが、興味深いのは、各都道府県士会の代表者による活動報告です。高知県言語聴覚士会においても、学術集会をはじめ様々な取り組みを行っています。各都道府県士会独自(例を挙げることを控えますが…)の活動があり、驚くことや笑ってしまいうようなことなども多々あります。また、懇親会等にも参加することがあり、多くの言語聴覚士の方々と知り合うことができ、さまざまな情報を得ることができるといった貴重な体験をさせていただいています。院内の仕事の中心は患者さんへの言語聴覚療法の提供でしたが、このような活動に参加することで、より良い言語聴覚療法を提供していくためには、各個人が臨床だけを行うのではなく、言語聴覚士全体がスキルアップできるような工夫を常に考え続ける必要があります。院外における仕事を担うことも重要な仕事のひとつであると感じるようになりました。今後、微力ながら役割を果たしていきたいと思っています。

平成26年度  
 前期行事予定表

4月3日・4日	オリエンテーション 健康診断	7月30日～8月6日	前期定期試験
4月5日	入学式	8月7日～9月30日	夏期休業
4月7日	前期授業開始	8月10日・11日	よさこい祭参加
4月24日	レクリエーション	8月16日	土佐市大綱まつり



食堂(卒業ランチ)

土佐市就学奨励費について

土佐市在住(土佐市の賃貸宿舍の居住者も含みます)の学生に対して、前期、後期それぞれ3万円の就学奨励費が交付されます。説明会(6月予定)を開きますので、該当する学生は忘れずに出席してください。

スクールバスの運行について

授業の開始(終了)時間に合わせて、JRいの駅⇄天王ニュータウン⇄学院間を1日6往復、スクールバスを運行(無料)しています。いの駅発の第1便は8時15分発です。他のダイヤは各階掲示板で確認してください。学院祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。